

# さん と め

さん とめ ち いき のう ぎょう れき し  
三 富 地 域 の 農 業 と 歴 史



さん と め の  
昔 と 今 と 未 来 を 知 ろ う



たけるくん

あやちゃん

ムサシ

三富地域とは埼玉県西部にある川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三芳町にまたがる緑豊かな畑作地帯です。



三富と書いて『さんとも』って読むんだね  
変わった名前にはどんな歴史があるのかな？

畑と林が順序よく並んでいるけど何か意味があるのかな？

※『三富』は地域によって『さんともめ』または『さんともみ』とよばれています。



じいちゃん うんちく

『富』のついたこの地名は、この土地が豊かになるようにと川越藩主 柳沢吉保が孔子の教えに基づきつけたのじゃ。



# 三富地域の地割

もっとも新しく開拓された三富新田は、幅6間(約11m)の道を縦横に開くことから始められ、この道の両側を間口40間(約72m)、奥行375間(約675m)の短冊状に区画されています。

## 平地林

肥料の原料となる落ち葉を取り、春と冬の強い風を防ぎ、この林の木でまきや炭も作りました。

樹木：ナラ類・エゴノキ・アカマツ

ほほう  
三富地域の勉強とは  
関心じゃ  
まずはこの変わった形の  
区画を見てもらおうかのう

この細長く短冊状に区画  
された土地は道路から  
屋敷・畑・林と順に  
並んでいるのじゃ



まあ 川越名物  
『さつまいも』でも  
食べながら聞きなさい

## 畑

一日一人分の労働範囲の目安になる5畝単位に区画。畑の防風と境界にも役立つとお茶も植えられました。さつまいもなどが作られて、江戸の人たちの間で「川越いも」と呼ばれ、とてもおいしいと評判でした。

※1畝=1アール=100平方メートル



じいちゃん  
うんちく

三富地域は春と冬の季節風が強く、砂の混じった風は目の前までしか見えなくなる程で、人々から『赤い風』と言われておるのじゃ。

# 三富新田の開拓

元禄7年(1694年) 川越藩主 柳沢吉保によって三富新田の開拓が行われました。一面のかや原にやせた土地、開拓農民を苦しめたのは土、水、風の自然のきびしさでした。



元禄の深井戸(げんろくのふかいど) 三富新田で11か所の深井戸(約22m)が掘られ、数軒の共同利用としました。しかし、日照りの時には井戸が枯れることもあり数キロはなれた柳瀬川まで歩いて水を汲みに行ったといわれています。



栄養分が少ない赤土と水の出しにくい土地そして強い季節風が吹くなんて...



機械のない時代だから開拓も大変だったろうね



じいちゃん  
うんちく

開拓したあとも土地がやせていたため、アワやヒエなどの雑穀しか育たなくて大変な時代が何と約50年もつづいたのじゃ。



### 畦畔茶 (けいはんちゃ)

強風によって土が飛ばされるのを防ぐために畑の境界(畦畔)にウツギを植えました。やがて江戸庶民にお茶を飲む習慣が広がると、お金になるお茶の木が植えられました。この畦畔茶が最初の狭山茶となりました。

(地割イメージ図)

### やしきりん 屋敷林

夏は日かげを作り、冬場は防風にも役立てられました。杉やひのきは家を建て替える時に利用され、時には材木としても売られることもありました。

樹木：けやき・杉・ひのき・かし類・竹など

### 道



六間道 (ろっけんみち)

幅6間(約11m)の広い道幅は、川もなく水の確保もむずかしい場所で、火事が起こり、火が広がるのを防ぐための役割がありました。

風の強い地域で風から畑や家を守るための工夫がたくさんあるんだね  
屋敷林と平地林で植えてある木の種類が違うのがおもしろいね

おいももらっちゃたけどこのおいしちゃん誰?

## 循環型農業

三富地域では、平地林の落ち葉で堆肥を作り、その堆肥を肥料にして野菜などをつくりました。また、屋敷林は、防風や日よけの役割をしたり、木は農具や家の材料に役立てられました。

### 屋敷林



家の建材  
農具の材料  
木のみ、竹の子などは食料  
まきや炭 (使い終わった灰は畑へ)

### 平地林



家の建材  
落ち葉たい肥  
山菜、キノコは食料  
まきや炭 (使い終わった灰は畑へ)

### 畑



落ち葉たい肥は畑の肥料  
落ち葉はさつまいもの苗床  
使い終わった灰も畑の肥料  
境界の畦畔茶でお茶を作り飲料

昔の人って結構エコなんだね

## 三富地域の野菜

昔の人びとの努力によってさまざまな野菜が育つ地域になり、首都圏有数の野菜生産地になりました。



今はこんなにたくさんの野菜が作られているのね



じいちゃんさんともめで喜らす人々は大きな恵みを与えてくれる平地林のことを『ヤマ』と呼ぶのじゃ。



# のこ 残したいもの つた 伝えたいもの

みらい 未来へ、そして世界へ

人の手によって造られて  
使うことによって今まで  
残ってきたこの場所を  
大切にしたいよね

まきも使わなくなったし  
今と昔で暮らしが  
大きく変わったよね

きれいな林じゃろ？  
300年も前からの  
姿を残す貴重な場所じゃ  
そしてこの三富地域の  
平地林は新たな役目を  
考える事も必要じゃ…



じいちゃん  
うんちく

平地林の中はいくつかの区画に分けられて、各区画ごとに約20年のサイクルで伐採と若木の育成が行われていたのじゃ。むかしから農民たちの手によって、大事にされていたということじゃな。



毎年行われる落ち葉掃きはイベントとしても行われ、今も落ち葉たい肥の伝統的農法として継承されています。この農法は首都圏で唯一、日本農業遺産に認定され、平地林の自然豊かな環境は、希少な生物の息づく場所にもなっています。



三富地域の特徴のある地割や伝統のある農法は、日本の独立行政法人国際協力機構（JICA）の技術指導によって、南米チリのサンペドロ村で砂漠化防止の成果を上げています。



## 三富地域農業振興協議会

〈事務局〉

〒350-1105 埼玉県川越市今成 2-29-4 (いるま野農業協同組合内)  
TEL 049-227-6318

〈お問い合わせ〉

埼玉県川越農林振興センター 三富農業・平地林活用担当  
TEL 049-242-1808 E-MAIL r4218103@pref.saitama.lg.jp



URL <http://www.santome.jp/>

ホームページでも  
詳しく説明して  
あります。

